

緩和ケア

著者	柿川 房子
雑誌名	NICかわらばん
巻	309
発行年	2008-01-05
URL	http://hdl.handle.net/10631/766



看護学科 がん看護学

教授 柿川房子

苦痛を取ることでず。

苦痛って何？ これはま
ずがんの痛みを取るこ
から始まったといつてよ
いでしよう。単なる痛み
だけではありません、息
苦しいのもつらいです。ね
痰が絡んでゼーゼーいう
のもつらいし、吐き気・

嘔吐(おうと)、体のだる
いこと、痙攣(けいれん)、
そして精神的に不安や、
死ぬこと生きるつらさも
ありますね。仕事のこと、
家族のことなど、このよ
うに人の生きることすべ
てにかかわることがこの
ケアの対象になります。

WHOの定義では、緩
和ケアとは、治癒を目的
とした治療に反応しなく

なった患者に対して行わ
れる総合的なケアです。

痛みその他の症状コン
トロール、及び精神的・
社会的・感情的・情緒的
安定が得られるように最
大の努力をする。緩和ケ
アのめざすものは、患者、
家族のQOL(quality of
life)生命いわゆる生活の

緩和ケア

質の向上である、となっ
ています。

このようなケアを専門
にしているのがホスピス、
緩和ケア病棟、あるいは
緩和ケアチームというこ
とになります。ホスピス
は、ヨーロッパで発達し
た末期患者への医療を中
心とした総合援助システ

ムで、末期に生じ
る患者・家族のさ
まざまな苦痛をコ
ントロールするに

必要な身体的・心理的・
社会的・精神的な世話(ケ
ア)をする支援プログラ
ムを提供するところ。日
本でも一九八二年に静岡
に初めてホスピス病棟が
開設されています。

モルヒネを中心とした
薬剤のコンビネーション
によって、痛みを取るこ
とです。日本ではWHO

のがんの痛みからの解放
という小冊子が翻訳され
て出版されたのですが、
残念なことに、一部の専
門的な医療者の知識がな
かなか一般の医療者や患
者さんのところまで行き
届いていません。日本人
の痛みを我慢すること、
我慢強いことを美德とす
る価値観、そしてモルヒ
ネに対する中毒、という

考えがすっかり根づいて
いることが邪魔していま
す。我慢しないで治療し
ているときから早めに苦
痛は取って、たとえがん
になっても、治療しなが
ら人生は、上手にしまつ
りと継続できるのです。
痛みをとるために使用し
た患者さんにモルヒネの
中毒になった報告はほと
んど聞かれないというの
が通念です。現代医学・
看護学の進歩を上手に活
用しましょう。

